平成20年度　施策評価シート

◆総合計画における位置付け等

平成20年7月15日記入

基本目標	学びあいあたたかさのある福祉文化都市をめざして	施策コード	16220
政策名（章）	第6章　彩りのある市民文化を創造します	評価担当局	教育局
基本施策名（節名）	第2節　郷土意識づくりの推進	施策所管課	文化財保護課
施　策　名	文化財の保存と活用	課長名	大川貴市

1　施策の目的・概要（目的はわかりやすく記入）

【目的】郷土の歴史や文化を今日に伝える文化財を学び、理解するために保存と活用を図り、後世に継承する。
【概要】
・文化財の保存と活用を図るため、調査・研究を通して、文化財の指定・登録を行う。
・市民が学び、憩うための公開・活用を図るため、史跡等の保存・整備を行う。
・市内遺跡の保存を図るため、埋蔵文化財等の開発調整を行う。
・文化財の活用を図るため、市民参加の文化財普及事業を行う。

2　事業費・人員

（単位：千円）

年度	平成17年度（決算）	平成19年度（決算）	増減の主な理由
事業費	74,827	625,730	田名向原遺跡整備工事費の増 勝坂遺跡用地購入費の増 川尻遺跡保存整備事業の増 川尻遺跡用地購入事業の増
人件費	60,375		
市民一人あたりの事業費（単位：円）	112	886	
合計	135,202	625,730	

＊人件費は、職員一人あたり　H17：805万円、H19：805万円として算定。人口は、66.7万人（H18.4.1現在）、70.6万人（H20.4.1現在）とした。

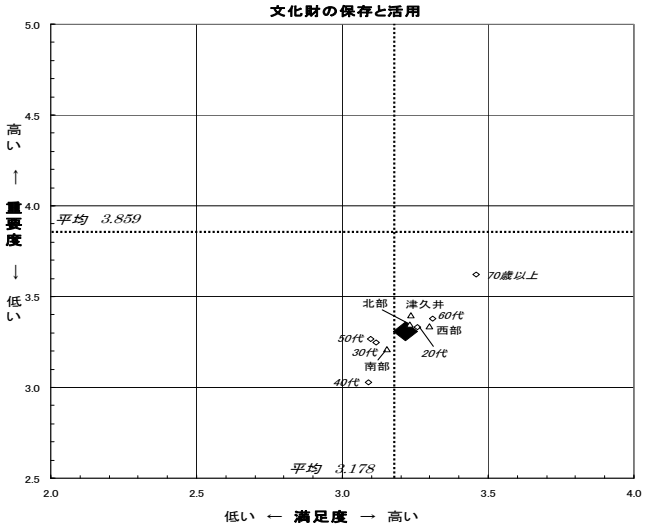
3　成果・活動指標

	指標名	指標の基準値の定義	目標値の考え方（根拠）
指標1	指定・登録文化財の保存・公開	市・県・国の「指定・登録文化財」件数【指定・登録して保存・公開されている文化財】	市・県・国の指定・登録文化財の累計数を地域文化の保存につとめる指標とする
指標2	史跡等の保存・公開活用指数	史跡等の保存・公開活用度を指数化して【保存段階（指数0．3）】、【整備段階（指数0．5）】、【活用段階（指数1）】、活用指数の目標値への到達度（点数）を測る。	国指定史跡等（田名向原遺跡、勝坂遺跡、川尻遺跡、当麻亀形遺跡・小原宿本陣5箇所）の公開活用の到達度指数を各1点とし最大目標値を5点とする。
指標3	包蔵地内確認件数による埋蔵文化財保護率数	包蔵地の周知の徹底と埋蔵文化財の保護に努めるため、事前相談による土木工事等の把握。相談数の増加により埋蔵文化財保存指導機会の増加につなげる。	年間の相談件数を包蔵地の周知の徹底と埋蔵文化財保護の努力指標とする。但しHPの活用で相談者の利便を図り、窓口件数は微増を目標とする。
指標4	文化財普及事業市民参加数	保存している文化財をより身近に感じ郷土への愛着を深めるきっかけとしていただくため、各種事業を実施した際の参加人数	古民家園事業、史跡活用情報発信事業、民俗芸能大会などの参加者数により郷土意識作りの推進をはかった指標とする
指標5			

	基準年	基準値	H19		H20		H21		H22	
			目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値
指標1（単位：件）	H17	95	135	135	135		145		155	
事業費／人員										
指標2（単位：点）	H17	1.7	1.9	1.9	2.4		2.4		3.1	
事業費／人員										
指標3（単位：人）	H17	4,436	4,600	4,376	4,500		4,500		4,500	
事業費／人員										
指標4（単位：%）	H17	7,269	7,300	8,633	7,500		15,000		18,000	
事業費／人員										
指標5（単位：人）										
事業費／人員										

4　市民満足度調査結果（平成20年度実施分）

〇この施策の満足度は3.215で121施策の中で36番目。
〇重要度は3.307で116番目である。
〇改善要望度は-0.4166で117番目である。
〇年齢別にみると、満足度は70歳以上で最も高く、40代で最も低くなっている。重要度は70歳以上で最も高く、40代で最も低くなっている。
〇地区別にみると、満足度は西部で最も高く、南部で最も低くなっている。重要度は津久井で最も高く、南部で最も低くなっている。



5　1次評価（2つの視点から評価を行う）

視点の種類	評価基準・着眼点	評価点	H18評価点	前回（H18）評価結果との比較分析
有効性	各事業が果たす施策に対する目標の達成度合いを把握し、効果の高い事業を実施している	4 (2) 1	4 (2) 1	・文化財の指定・登録は、津久井地域の文化財を中心に市指定等を行った。 ・史跡等の公開・活用は、田名向原遺跡公園開園後、ガイダンス施設を整備して、平成21年4月から史跡を学び、理解するための公開・活用を行う予定。 ・埋蔵文化財保護のための開発事業調整は、目標に従い市民の理解を得ながら実施するとともに、HPの充実等事業者への周知を図っている。 ・文化財普及事業は、市民協働の事業で参加人数の増加を図った。
市民満足度	市民満足度調査により市民ニーズを把握し、市民の立場に立って事業展開している	4 (2) 1	4 (2) 1	・史跡等の文化財の保存と活用は、PRや市民協働による普及事業が必要であることから、文化財調査・普及員との協働で、文化財普及事業を行うとともに、ボランティアガイドを養成して、田名向原遺跡のガイドを月2回（日曜日）実施している。
合計		4	評価結果に基づく区分（2項目の合計点数による） A（6点以上）　B（5点・4点）　C（3点以下）	1次評価 B

＊Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向

6　課題と解決策（現状または、評価結果から）

課題	文化財の保存と活用は、行政的保護の側面と市民との協働による保存と活用が必要
解決策	文化財保護の意義をPRし、市民との協働による文化財の活用事業を津久井地域をはじめとして各地域で行う。

7　2次評価及び意見（1次、2次で評価に相違がある場合など、必要に応じて意見を記入）

客観的に成果を測定できる指標設定を行う必要がある ・文化財の市民の認知度	2次評価 B

＊Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向

8　3次評価及び意見（評価結果及び課題・解決策について、必要に応じて意見を記入）

	3次評価 B

＊Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向

文化財の保存と活用

コード	16220

構成事務事業一覧

単位：千円

事務事業担当課	構成事務事業	H19決算見込（事業費）	H20予算（事業費）	H21見込額（事業費）	事業効果の高い指標番号	前回の優先順位	H17人員（人）	H17決算額（事業費）	H17合計（人件費含む）
文化財保護課	文化財調査費	20,863	27,582	28,182	3	法	2.00	17,041	33,141
文化財保護課	生涯学習維持補修費	576	180	180	1	4	0.50	37	4,062
文化財保護課	文化財保護管理費	12,299	13,098	13,098	1	4	1.00	10,265	18,315
文化財保護課	文化財保護審議会経費	599	581	581	1	3	0.50	386	4,411
文化財保護課	田名向原遺跡保存整備事業	171,304	101,229	25,112	2	1	1.50	38,667	50,742
文化財保護課	勝坂遺跡保存整備事業	12,035	17,100	120,434	2	1	1.00	5,958	14,008
文化財保護課	文化財普及事業	3,864	2,961	2,961	4	5	1.00	2,473	10,523
文化財保護課	川尻遺跡保存整備事業	6,827	7,781	7,734	2				0
文化財保護課	川尻遺跡用地購入事業	150,298	28,539	30,626	2				0
文化財保護課	勝坂遺跡用地購入事業	245,065	0	0	2				0
文化財保護課	津久井城跡調査事業	2,000	1,900	1,900	1				0
文化財保護課	当麻亀形遺跡保存整備事業	0	0	2,888	2				0
文化財保護課	小原宿本陣保存整備事業	0	0	0	2				0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
									0
		625,730	200,951	233,696			7.50	74,827	135,202